

平成 20 年 9 月 30 日

白馬村 村長  
太田 紘熙 殿

白馬新ごみ処理施設を考える連絡協議会  
会長 宮田 温巳  
住所 〒399-9301  
北安曇郡白馬村北城 11020

## 九月議会冒頭の村長挨拶への抗議と質問

9月9日開会の議会冒頭の挨拶で、貴殿は新ごみ処理施設建設計画に関連して、下記のようないくつかの問題発言をしました。貴殿の事実に反するずさんで意図的な発言が住民を惑わすものであることに抗議します。併せて私どもの主張といくつかの質問を付記しました。

私どもの主張に対しては適切な対応を求めるとともに、質問に対しては2週間を目途に回答を求めます。

### 記

1. 2 巡目説明会の総括は、貴殿にとって都合のよいことしか述べていません。13 会場での住民の発言は、全体として反対の意見が賛成の意見を上回っていたと認識しています。13 会場の住民説明会の記録の公開を求めます。

2. 「議会の議決」「議会の承認」との言葉が随所にあります。それが「広域連合議会」を指すのか、「白馬村議会」を指すのかが曖昧です。

その明示と、その期日はいつなのか、また採決結果はどうなっていたのかについて、該当箇所の議事録を添付し事実即した説明を求めます。

3. 「村民の一部の皆様からはその情報の出し方が質量を含め不透明であり、だから反対だとなご指摘がありました。」と、私どもが主張するもっとも重要な部分のこのような矮小化は、反対理由の本質を伝えていません。

飯森地区の選定に関わる委員会の意思決定過程をまったく知らせなかったのは、住民の知る権利を剥奪するもので、民主主義政治の原理に逆行するものです。

また、村長には、基本計画検討委員長：松岡英子氏の提言を無視し、情報公開を怠ってきたことへの反省はないものと考えられます。

「情報がすべて万全に発信されたとは思いませんが、…」とありますが、万全に発信されていなかったために今日の混乱があるのです。なぜ万全に発信しなかったのかその理由と混乱の責任をどうお考えなのか貴殿の見解を求めます。

4. 候補地：飯森に関しての、「最終的な絞込みができるまでは、発表しないでおこう」も、「発表された時は、そこが適地として決定・尊重しよう」「この方法を選択したことは決して間違った手法であるとは言えない」も、行政の都合であり“住民不在”そのものです。貴殿には、住民の目線が理解できないのでしょうか？このような古い行政の手法を間違いではないと断言することに、貴殿の時代錯誤と選挙公約とは裏腹に情報公開を重視しない姿勢が見られ残念です。

観光に生きる白馬村のリーダーが、もっとも危険とも言える飯森を「唯一の候補地」「最適地」と断言することに多くの住民が失望しています。有力者を動員しての賛成署名が貴殿に対する信任だと考えているのであれば、とんでもない錯覚です。あるいは、「裸の王様」と言ってもよいでしょう。

5. 「又、何よりも今まであった施設がこの白馬からなくなった時、時間の経過とともに施設のなくなったことを憂えることになりはしないか、…」は、白馬村に新施設が出来た場合、おそらく大町市民も同じ思いになるでしょう。この地域エゴを前面に押し出して、「飯森」を容認させようとの発言は姑息で卑屈です。

私たちは白馬の村民益に合致した、ごみ収集方法が確立されれば憂えることは無くなると考えます。貴殿の見解を求めます。

6. 「一方で、現在の施設の耐用年数が迫り、維持管理費が増大するとともに、…」と事実を曲げて、それを誇大に伝えていることは、今まで慣れ親しんだ白馬山麓の施設が、22年から使えなくなるとする広域化計画こそ住民にとっては唐突なのです。平成9年の国の指針が、平成17年に補助金制度を交付金制度に切り替えるとともに大きくカーブを切りました。平成20年には環境省が「第2次循環型社会形成推進基本計画」を決定しました。そうした時期だからこそ、まだ10年は使える現有施設を活かす方向で考え直すことが重要です。まだ使える施設を壊してまでして新施設を作る理由はなんなのか、貴殿の見解を求めます。

7. 「飯森地区がダメとなった時は、その次の結論は広域連合に戻すのが筋であり、再度白馬村での候補地は難しいと考えるのが当然ではないでしょうか。」は、「白馬村からごみ施設がなくなるとは困る」との村民感情を「飯森でも仕方がないか」へと誘導する、きわめて悪質な意図的発言です。広域連合に戻した後は、用地選定委員会が討議し、第2の候補地が白馬になるか、大町になるかは未定のはずです。この指摘に対する貴殿の見解を求めます。

8. 「…、最終的には村民益を考える時、当初の方針どおり飯森地区を唯一の候補地として事業の推進を図りたいと考えておりますので…」で、何が村民益なのか、何をもって当初の方針どおり飯森を推進するのか理由が述べられていません。どのような基準で事業推進をお考えになるか貴殿の見解を求めます。

各市村の財政状況や、今の時代何が求められているのかを住民とともに検討すれば、当初のプランを一時棚上げすることこそ最善であることが、おのずから明らかになるはずです。自由な発想で、ごみ処理政策を再構築することこそ、村民益とともに白馬村の発展、ひいては大北エリアの発展につながると考えます。今こそ決断が求められています。貴殿の見解を求めます。